

2014-2015年度 ブックスタート赤ちゃん絵本20冊が決定

2014-2015年度に各地域のブックスタート事業で赤ちゃんに手渡される絵本の候補となる「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」が決定しました。なお、手渡す絵本は各地域で選ばれ、出版界の協力を得た非営利のしくみの中で、NPOブックスタートから実施自治体へ提供されます。

■ 独立した中立的な「絵本選考会議」

ブックスタート赤ちゃん絵本20冊は、2年に一度開催される独立した中立的な「絵本選考会議」で選出しています。赤ちゃん絵本に関する知識と経験が豊富な5名の選考委員(乳幼児発達の専門家、司書、保育士など)が、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本*の中から、選考基準に基づき、選考を行います。

2013年5月・6月、2日間にわたり開催された選考会議では、各委員の専門的な視点や豊富な実践経験から、様々な意見が交わされました。候補に挙がった絵本を、そばに

赤ちゃんがいるように1冊1冊実際に声に出して読み合いながら魅力を味わい、ブックスタートやおはなし会などで赤ちゃんとその絵本をどのように楽しんだか、赤ちゃんや保護者がどのような反応を見せてくれたかなどの経験も共有。自治体の事業の中で手渡されることなども考慮した上で、選考を行いました。



* NPOブックスタートでは、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本を収集・所蔵しています。これらの絵本と、各選考委員から推薦された絵本を合わせた、約4,300冊の中から選考を行いました。

■ 選考基準

- ・赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わしながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本。
- ・上記に関し、年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。
- ・上記に関し、今後、赤ちゃんからその支持を受ける可能性が高い絵本。

■ 選考委員 (敬称略・五十音順)

石井 アケミ(小児科医師・石井小児科 院長) 広松 由希子(絵本研究家)
 近藤 初江(保育士・東京都北区立桜田保育園 園長) 藪中 征代(乳幼児発達・聖徳大学大学院 准教授)
 永島 緑(司書・大阪府豊中市立図書館)

<2014-2015年度 ブックスタート赤ちゃん絵本20冊>

『あそび』	作/ヘレン・オクセンバリー (文化出版局)	『くだもの』	作/平山和子(福音館書店)
『あつ!』	文/中川ひろたか 絵/柳原良平(金の星社)	『ごぶごぶ ごぼごぼ』	作/駒形克己(福音館書店)
『いない いない ばあ』	文/松谷みよ子 絵/瀬川康男(童心社)	『じゃあじゃあ びりびり』	作/絵/まついのりこ(偕成社)
『おつきさま こんばんは』	作/林明子(福音館書店)	『ちょうちょう ひらひら』	文/まど・みちお 絵/にしまさかやこ(こぐま社)
『おふるで ちゃがちゃが』	文/松谷みよ子 絵/いわさきちひろ(童心社)	『どうぶつのおやこ』	画/数内正幸(福音館書店)
『おやすみ』	作/中川李枝子 絵/山脇百合子(グラマママ社)	『とってください』	作/福知伸夫(福音館書店)
『がたん ごたん がたん ごたん』	作/安西水丸(福音館書店)	『ととけこう よがあげた』	案/こばやしえみこ 絵/ましませつこ(こぐま社)
『かにこちゃん』	作/岸田裕子 絵/堀内誠一(くもん出版)	『のりもの つみき』	作/よねづゆうすけ(講談社)
『ぎゅっ ミニブック』	作・絵/ジェズ・オールバラ(徳間書店)	『ぴょーん』	作/絵/まつおかたつひで(ポプラ社)
		『みず ちゃぼん』	作/新井洋行(童心社)
		『もこもこ』	作/谷川俊太郎 絵/元永定正(文研出版)

■ 地域で手渡す絵本を決定する際に…

地域で手渡す絵本を決める際には、その過程や理由を明らかにし、関係者で共有しておくことが大切です。選考会議の中では、委員どうしが絵本を読み合う際、「読んでもらうと嬉しい」という言葉が何度も聞かれました。

ぜひ関係者の皆さんで実際に絵本を手に取り、読み合い、絵本の世界を存分に楽しみながら選んでみてください。赤ちゃんになったつもりで読んでもらうことで、「この絵本で、赤ちゃんとお母さんの周りの人がどんな時間が過ごせるかな」と、想像することができるのではないのでしょうか。

□ 絵本を貸し出します

NPOブックスタートでは絵本の見本を貸し出しています。地域で手渡す絵本を決定する際にご活用ください。

※お問い合わせは地域支援担当まで。

※返却時の送料(実費)のご負担をお願いしています。



■ 非営利のしくみによる絵本提供

□ 特別な価格と流通の適用

ブックスタート赤ちゃん絵本20冊については、提供出版社に得失のない「特別支援価格」で、かつ、通常の書籍流通と異なり、出版取次会社や書店を経由せず、出版社から直接NPOブックスタートに提供されます。そして他のアイテムと共にブックスタート・パックとして自治体に購入されます。

このしくみは、2000年の子ども読書年の際に、出版界(出版社・出版取次会社・書店)がブックスタートを応援することを確認して行った「ブックスタート・パックの絵本提供のしくみからは直接的な利益を得ない」という合意に基づき、運用されています。

～ 各地の絵本の選び方 ～

地域によって、手渡す絵本の決め方は様々です。例えば、関係者全員で決めたり、本を専門とする図書館が主体となって決める地域もあります。また、赤ちゃんの成長について詳しい保健師や保育士、経験豊富なボランティアの意見を取り入れたりするなど、地域ごとに工夫されています。

CASE 1 茨城県結城市

子ども福祉課及び子育て支援センター職員、図書館司書、読みきかせボランティアが集まり、20冊を実際に手に取ってそれぞれの観点から意見を出し合い、ことばの響きやすさ、赤ちゃんの反応なども考慮しながら決定しています。

CASE 2 神奈川県平塚市

市内の各保育園に図書館から20冊を貸し出し、各園では保育士がすべてを赤ちゃんに読みます。絵本を決める際には、貸し出し中に赤ちゃんがどのように絵本を楽しんだかということについて、保育士がまとめたレポートを参考に、図書館員が候補となる絵本を絞り込みます。その後、保健師、保育士、ボランティアの投票により、最終決定します。

※ブックスタート・ハンドブック第6版 P.52より

※障がいのある方への対応について、事例などの情報が必要な場合はお問い合わせください。

→次ページにつづく

～選考委員から～ (敬称略・五十音順)



石井 アケミ
(小児科医師)

絵本の読みきかせは絵ばかりではなく話し言葉に注目する力、想像力を広げてくれます。それが、身近なお母さんであればなお一層、子どもに伝わります。初めての絵本は赤ちゃんにも伝わりやすく、赤ちゃんの力を引き出してくれるような、親子の心に響くような、美しい言葉を育むようなものであってほしい。そんな思いでテーマや絵の内容だけではなく、時代を越え、読み継がれるものを皆で熱心に話し合いながら決めました。2日間こんなに忌憚ない意見を言い合っても、和気藹藹と終始したのはこれも絵本の力でしょう。幸せな時間でした。

絵本の選定にあたっては、長年子どもたちに親しまれてきた絵本と、今後、読み伝えられるような新しい絵本を…と考えました。8年前に選考委員をした時に比べ、たくさんの赤ちゃん絵本が出版されていて、家庭で赤ちゃん和絵本をひらくことが浸透していることを実感しました。たくさんの絵本が出版されているからこそ、中身を吟味し、子どもたちに良質な絵本を届けたいと思っています。新旧の絵本が選ばれましたが、これらの絵本を通してふれあうことが、保護者や子どもたちにとってかけがえのない時間となるように願っています。そして、数多くの子どもたちにこれらの絵本が届きますように。



近藤 初江
(保育士)



永島 緑
(司書)

絵本にはことばのリズムや音、絵の色彩やタッチなど魅力的な要素がたくさんあります。赤ちゃんが絵本をまるごと楽しみ、読んでもらうことを心地よく感じられるか、そこから親子のコミュニケーションが広がるかどうか、ブックスタートの会場や家庭で絵本を楽しむ姿を具体的にイメージしながら、選考にあたりました。選考会議では数多くのすばらしい絵本が候補にあがり、そこから20冊というのは楽しくもありづらい選択でもありました。話し合いの過程でそれぞれの分野から集まった委員の皆さんが、普段どんな思いで絵本に接しておられるのか、どのように子どもたちに絵本を届けていらっしゃるのかをお聞きすることができたのは、司書として、絵本に関わるものとして、大変貴重な体験でした。これからも絵本の力を信じてブックスタートに取り組んでいきたいと思っています。

前回に続き、2度目の選考会議を体験させていただき、あらためてブックスタートならではの選書について考えました。ひとつは「すべての赤ちゃんとその保護者」を対象とすること。バリアフリーの視点をどう取り込めるか。また人生で最初に贈られる絵本が一生の宝物になり得ることを、自分の体験を照らして思いながら選書に取り組みました。不安も多い子育ての日々、こんな時代だからこそ、赤ちゃん和家族に、絵本を通して幸せな時間が届けられたらと願っています。いろいろあってもやっぱりこの世界は面白く、絵本にはたくさんの発見や希望が詰まっていると信じます。まだ見ぬ赤ちゃんたちに「ようこそ」の気持ちをこめて選びました。



広松 由希子
(絵本研究家)



藪中 征代
(乳幼児発達)

日頃は、乳児期からの絵本読み場面での親子のふれあいを観察させていただいています。そこから、乳児期の絵本の読みきかせは、親子に楽しい語らいの場を与えるものであると考えています。今回の選考にあたっては、親子で絵本に出会い、コミュニケーションの促進につながってほしいという思いで選びました。選考会議では、お互いに絵本を読み合うことにより、絵本は読み手の声で、読み手の言葉として伝わってくることを実感しました。そして、絵本の言葉が、読み手の声の調子や表情、絵本に対する思いと一緒に聞き手に伝わってきました。絵本で楽しい時間を共有し合った2日間でした。